

2025年度 公認野球規則改正の概要

	規則	改正のポイント
1	2. 0 1	<ul style="list-style-type: none"> ・競技場の区画として、グラスライン（芝生の線）の内容が昨年が続いて、さらに追加された。 ・本塁一塁間のベースラインに沿ったフェア地域内のグラスライン（芝生と土の境目または色の異なった人工芝の境目）はこのベースラインから18インチから24インチ内の幅とする。 ・【注】として、我が国で使用する球場・グラウンドは様々であり、この基準（ライン）を示すことは困難であるため適用しない。（公認野球規則書の巻頭『野球競技場区画線（1）』の表記も現行のままとする）
2	3. 0 1 【軟式注】	<ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球で使用されている公認球のうち、準硬式で使用されているボールの反発に関する許容範囲の改正
3	3. 0 8	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットに関する規定 ・3. 0 8（b）はマイナーリーグに関する規定のため削除 ・3. 0 8（c）に付されている【注】（アマチュア野球では所属する団体の規定に従う）を3. 0 8全体に係るものとして、【3. 0 8注】として移動
4	5. 0 4（b）	<ul style="list-style-type: none"> ・打者の義務に関する規定 ・①・②いずれもマイナーリーグに関する規定のため削除
5	5. 0 9（a） （1 1） 【原注】	<ul style="list-style-type: none"> ・打者走者がスリーフットレーンを走るにあたっての解釈に加え、『一塁に対する守備が行なわれているとき』の解釈（タイミング）についても以下のとおり、記述が追加された。 ・『打者走者が本塁一塁間の後半に達したとき』と『野手が一塁への送球にあたってボールをリリースしたとき』のいずれか遅いときと明文化した。 ・本規則の適用における判断基準を示したものであることから、そのまま記載するが、【注】として従来通りの解釈とする。
6	5. 1 0（g）	<ul style="list-style-type: none"> ・『投手の投球義務』に関する改正 ・（1）および（2）項に区分けされた。 ・いずれも『最小限必要とされる打者への投球』の項目 ・公認野球規則は『救援投手』に関するものであるが、OBRにおいては『先発投手および救援投手』となっており、いずれも登板して3人の打者またはインニングの交代まで投球する義務があることと規定されている。（我が国ではそのとき打者1人のみでよい）

		<ul style="list-style-type: none"> ・(2)項として、イニングの初めに登板した投手が準備投球を行なえば、その第1打者(代打者も含む)への投球義務を果たす必要がある内容が加えられた。 ・これは2023年のMLBの試合で準備投球を始めてから代打者が送られ、これによって投手が交代する事例が多く、時間の浪費として問題となった。 ・今回、公認野球規則も原文に則して記述することとし、OBR記載のとおり、(1)項として、3人の打者への完了義務がある旨に修正するが、我が国では従来通り、第1打者のみの完了義務として採用せず、現行の(g)で記載されている『ある投手に代わって救援に出た投手は、そのときの打者または代打者がアウトになるか一塁に達するか、あるいは攻守交代になるまで、投球する義務がある』旨の【注】を加える。 (先発投手については同(f)で記載されているとおり) ・改正となった(2)項も、5.10(i)『イニングの初めにおける、すでに出場している投手の投球義務』についての整合は図られることから、採用する。 ・すでに出場している投手の投球義務 <ul style="list-style-type: none"> →ファウルラインを越えても、準備投球を行う前であれば、代打者が送られたことを受けて、その投手の交代は認められるが、<u>準備投球を開始してしまえば、例え代打者であってもその投手の交代は認められず、その代打者に対して投球する義務がある。第1打者が代打者でなければ、従来通り、ファウルラインを越えた時点でその投手の交代は認められない。</u>
7	5.10(m) (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・監督またはコーチ、野手が投手交代を伴わずにマウンドに行く制限回数の改正 ・MLBでは9イニングに5回までとしたものを4回までに改めた。 ・【注】とし、所属する団体の規定に従う従来通りの表記とする。
8	6.02(d) ペナルティ	<ul style="list-style-type: none"> ・投手の禁止事項に関するペナルティの規定 ・マイナーリーグに関する規定箇所を削除
9	7.01(a) (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・試合を打ち切ることのできる権限者の追加 ・球審に加え、リーグ事務局にもその権限が与えられた。 ・7.01(c)で明記されたように、球審だけでは判断できない事象もあることを受けてのものと考えられる。 (公認野球規則書の巻頭『正式試合』内の表記にも対応する)

1 0	7.0 1(c)	<ul style="list-style-type: none"> ・予定されている試合が実施できない事由およびその判断について明記した項が新たに追加された。 ・該当事由のうちの一部は現行の7.0 2(a)で示されていた。 ・何故、リーグ事務局に判断する権限が与えられたのかを明確にするため、採用することとし、我が国では所属する団体の規定に従う旨の【注】を加えた。
1 1	7.0 1(d)	<ul style="list-style-type: none"> ・コールドゲームが正式試合となるケースに関する規定 ・現行の7.0 1(c)と7.0 1(d)が統合 ・ただし、本項(1)～(3)のケースで同点の場合およびイニングの途中、そのイニングが終了する前にそのイニングでビジターチームが逆転したとき、またはその逆転されたホームチームが再び逆転できないまま打ち切られた場合はサスペンデッドゲームとなる旨が加えられた。 ・【注1】として、正式試合となる前に打ち切られた試合はノーゲームとすることができる内容を加えている。(プロ野球および大学野球では『ノーゲーム』としているため) ・現行の【注】を【注2】として、所属する団体の規定に従う。
1 2	旧 7.0 1(e) 7.0 1(f)	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の7.0 1(e)『正式試合となる前＝ノーゲーム』の内容が削除された。(正式試合となる前はすべて、サスペンデッドゲームとなる) ・現行の7.0 1(f)『正式試合後のサスペンデッドゲームにおける雨天発行券に関する規定』も削除された。
1 3	7.0 1(e)	<ul style="list-style-type: none"> ・正式試合の勝敗は終了時の両チームの総得点とする旨の規定 ・現行の7.0 1(g)から繰上げ ・(4)項の一部表現が修正 (文頭の「7.0 2(a)により、サスペンデッドゲームにならない限り・・・」の文言が削除) ・【注】(終了時の総得点としない例外)についても、コールドゲームが宣告できる者に「リーグ事務局」を加えた。さらに、文中の「サスペンデッドゲームとしない」の文言も必要ないとの判断から削除している。
1 4	7.0 2(a)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストポンドゲームおよびサスペンデッドゲームとなる条件項目の改正 ・予定されていた試合開始前の中止による延期、試合が開始されたものの、正式試合となる前、正式試合となった後で同点、正式試合となった後にイニング途中で打ち切ったイニングにおいて、そ

		<p>のイニングの表で同点または逆転したが、その裏に再逆転できなかったケースは後日実施できるように予定しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球場の設備や環境の実施可否については7.01(c)に移動。 ・7.02を包括して、本項(f)の最後に【7.02注】として、所属する団体の規定に従うこととする旨を入れる。
	7.02(b)	<ul style="list-style-type: none"> ・延期された試合、完了できなかった試合の実施スケジュールに関する規定 ・再開される試合は両チーム間で予定するシーズン中（できれば次の予定された試合の前）、同じ球場で、お互いの空いた日に実施する。 ・現行の7.02(b)記載のものが、本改正によって、(b)～(e)の各項に分類されている。
	7.02(c)	<ul style="list-style-type: none"> ・延期された試合、完了できなかった試合のその後のスケジュールが立てられない場合の規定 ・リーグ事務局がその試合の実施可否の判断を行う。
	7.02(d)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続試合がシーズン中にスケジュールできず、最後まで完了できなかった場合の対処に関する規定 (打ち切った時点で正式試合となっている場合) ・リードしているチームの勝利。 ・同点であった場合はタイゲーム（引き分け）。 ・ただし、打ち切ったイニングに表の攻撃で同点または逆転し、裏の攻撃で同点もしくは再逆転できなかった場合は最終均等回（そのイニングの前の時点での両チームの総得点）で勝敗を決する。
	7.02(e)	<ul style="list-style-type: none"> ・開始前から中止延期された試合または継続試合（打ち切った時点で正式試合となっていない場合）において、シーズン中にスケジュールできず、実施できなかった場合の対処に関する規定 ・ノーゲームとする。
15	7.02(f)	<ul style="list-style-type: none"> ・再開試合における選手登録や出場条件等の取決めに関する規定 ・現行の7.02(c)から繰り下げ ・記載内容の変更はないが、表記を「続行試合」から「継続試合」に改める。 ・同【原注】の記載も本文と同様に「続行試合」から「継続試合」に改める。 ・【注】(所属する団体の規定に従う)を7.02全体に係るものとして、【7.02注】とした。
16	9.01	<ul style="list-style-type: none"> ・公式記録員に関する規定

		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に改めた the office of the commissioner をリーグ事務局という表現に統一したので、ここも表記を合わせた。 ・マイナーリーグに関する記述を削除。
17	9.22【注】	<ul style="list-style-type: none"> ・各最優秀プレーヤー決定の基準に関する規定 ・本項（9.22）だけは、マイナーリーグに関する記述はOBR原文どおりに残すこととしている。（プロ野球ファーム公式戦での記録計算＜規定打席・規定投球回数等＞に関する規定を採用しているため） ・【9.22注】の表記においても、マイナーリーグの規定をファーム（イースタン・ウエスタン）で採用する旨の記述を加えた。
18	定義14 コートゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・試合の打ち切りを命じることができる者として、球審に加え、リーグ事務局という文言が新たに追加された。
19	定義63 ポストポイントゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・7.02で多く用いている『ポストポイントゲーム』について、定義の中に追加された ・予定されていた試合が当日の開始前から雨天等で実施ができない場合を後日に延期する試合を指す

2024年11月18日

2025年度 野球規則改正

日本野球規則委員会

- (1) 2.01の最終段落の後段と【注】を次のように改める。

ただし、以下の場合を除く。

- (a) 内野の境目となるグラスラインは、投手板の中心から半径95呎(28.955m)の距離とし、前後各1呎については許容される。しかし、投手板の中心から94呎(28.651m)未満や96呎(29.267m)を超える箇所があってはならない。
- (b) 本塁一塁間のベースラインに沿ったフェアテリトリの内野のグラスライン(芝生の線)はベースラインから18呎(45.72m)以上、24呎(61.03m)以下でなければならない。

【注】 我が国では、本項(a)および(b)については、適用しない。

- (2) 3.01【軟式注】のH号の反発「50ㇰ～70ㇰ」を「70ㇰ～90ㇰ」に改める。

- (3) 3.08(b)を削除し、従来の(c)以下を繰り上げる。また同(c)【注】を削除し、末尾に【3.08注】を追加する。

【3.08注】 アマチュア野球では、所属する団体の規定に従う。

- (4) 5.04(b)を次のように改める。

① (2)【原注】の最終段落を削除する。

② (4)(A)最終段落の「マイナーリーグでは、」以下を削除する。

- (5) 5.09(a)(11)【原注】の後段に次を加え、【注】を追加する。

審判員は、(A)打者走者が本塁一塁間の後半に達した際、もしくは(B)野手が一塁への送球にあたりボールをリリースした際のいずれか遅いときに、打者走者の両足がスリーフットレーン内もしくはスリーフットライン上にあった場合、打者走者は5.09(a)(11)に従ったと判断する。

【注】 我が国では、本項〔原注〕後段については、適用しない。

- (6) 5. 10 (g) を次のように改める。

最小限必要とする打者への投球

(1) 先発投手または救援投手は、打者がアウトになるか、一塁に達するかして、登板したときの打者（またはその代打者）から連続して最低3人の打者に投球するか、あるいは攻守交代になるまで、投球する義務がある。

ただし、その投手が負傷または病気のために、それ以後投手としての競技続行が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

【注】 本項前段については、我が国では適用せずに以下のとおりとする。

救援投手は、そのときの打者（またはその代打者）がアウトになるか一塁に達するか、あるいは攻守交代になるまで、投球する義務がある。先発投手については5. 10 (f) 参照。

(2) イニングの初めに準備投球を行なった投手は、少なくともそのときの第1打者（またはその代打者）がアウトになるか一塁に達するまで投球する義務がある。

ただし、その投手が負傷または病気のために、それ以後投手としての競技続行が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

- (7) 5. 10 (m) の最初の段落を削除し、(1) を次のように改める。（下線部を改正）

投手交代を伴わないでマウンドに行くことは、9イニングにつき1チームあたり4回に限られる。延長回については、1イニングにつき1回、マウンドに行くことができる。

- (8) 6. 02 (d) ペナルティ(1) の「マイナーリーグでは、自動的に10試合の出場停止となる。」を削除する。

- (9) 7. 01 (a) (2) を次のように改め（下線部を追加）、【例外】を削除する。

球審もしくはリーグ事務局がコールドゲームを宣告した場合。

- (10) 7. 01 (c) を次のように改め、【注】を追加する。

球審もしくはリーグ事務局は、天候、フィールドまたは球場のコンディション、設備（開

閉式屋根、防水シートなど)の故障または意図しない操作ミス、大気の状態、外出禁止令、電気または照明の喪失、地域や国家の緊急事態、災害や政府の規制、暗闇、ファンおよび選手を含むチーム関係者と球場職員の健康と安全、または試合の安全な実施と継続を妨げる異常事態のために、試合を延期または中止することができる。

【注】 我が国では、所属する団体の規定に従う。

(11) 従来の7.01(c)と(d)を統合し、同(d)として次のように改める。

① 冒頭部分を次のように改める。

コールドゲームが次に該当する場合、正式試合となる。

② 末尾に次を加え、【注1】、【注2】を追加する。

コールドゲームとなった正式試合の得点はゲームが宣告された時点での得点となる。

上記にかかわらず、両チームの得点が等しいままコールドゲームが宣告された場合、またはインニングの途中で、そのインニングが終了する前にコールドゲームが宣告された場合であって、ビジティングチームが同点またはリードするために1点またはそれ以上の得点をして、ホームチームがリードを奪い返していない場合、通常であれば正式試合となるコールドゲームは、以下の7.02に適用されるサスペンデッドゲームとして扱われる。

リーグ事務局はまた、試合を打ち切らなければならない状況が非常に特殊または異常であれば、公正を期すためにその試合をサスペンデッドゲームとして扱うか、別の方法で扱う必要があるかを判断することができる。

【注1】 我が国では、正式試合となる前に、球審もしくはリーグ事務局が試合の打ち切りを命じた場合には、「ノーゲーム」を宣告することができる。

【注2】 我が国では、所属する団体の規定に従う。

(12) 7.01(e)および(f)を削除する。

(13) 従来の7.01(g)を(e)とし、同(4)を次のように改めるとともに、【注】についても次のように改め(下線部を追加)、「サスペンデッドゲームとしないで、」を削除する。

(4) コールドゲームが宣告された正式試合の得点は、試合終了時の両チームの総得点をもって、その試合の勝敗を決する。

【注】 我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審もしくはリーグ事務局がコールドゲームを宣告したとき、次に該当する場合は、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(14) 7. 02を次のように改める。

(a) ポストポンドゲーム（開始前に中止、延期された試合）やサスペンデッドゲーム（以下の状況で打ち切られた試合）は、開始または再開して完了できるよう、直ちに予定されなければならない。

(1) 正式試合となる前。

(2) 両チームの得点が等しい。

(3) イニングの途中で、そのイニングが終了する前に、ビジティングチームが1点またはそれ以上の得点をして、同点またはリードを奪ったが、ホームチームがリードを奪い返していない。

(b) ポストポンドゲームおよびサスペンデッドゲームは、両クラブ間で予定されているシーズン中（すなわち、両クラブ間で次に予定されている試合の前）に、できれば同じ球場で、両クラブの試合のない日に開始または再開して完了できるよう、直ちに予定されなければならない。

(c) ポストポンドゲームおよびサスペンデッドゲームが、シーズン中に完了する予定が立たない場合、またはシーズン中に実施可能な選択肢が片方もしくは両方のチームに過度の負担を及ぼす場合、リーグ事務局は、関連するすべての要素を考慮して、シーズンの完了後を含めて、試合を行なうか決定する。

(d) サスペンデッドゲームが、シーズン中に再開されなかった場合、その試合がコールドゲームを宣告された時点ですでに正式試合となる回数が行なわれていたときは、次のようになる。

(1) コールドゲームが宣告された時点でリードしているチームの勝ちとなる。

(2) コールドゲームが宣告された時点で得点が同点であった場合、その試合はタイゲームとなる。

ただし、(1) および (2) にかかわらず、イニングの途中で、そのイニングが終了する前にコールドゲームが宣告され、ビジティングチームが1点もしくはそれ以上の得点でリードを奪うかまたは同点に追いつき、ホームチームがリードを奪い返すか再び同点に追いつくことができなかった場合、両チームが完了した最終均等回の総得点で勝敗を決する。

(e) ポストポンドゲームがシーズン中に再び予定されなかった場合、またはサスペンデッドゲームがシーズン中に再開されなかった場合であって、その試合がコールドゲームを宣告された時点で正式試合となる回数が行なわれていなかったとき、その試合は「ノーゲ

ーム」となり、いかなる目的においても試合としてカウントされない。

(15) 従来の7.02(c)を(f)とし、本文および【原注】の「続行試合」を「継続試合」に改める。また、【注】を【7.02注】として「サスペンデッドゲームについては、」を削除する。

(16) 9.01の「メジャーリーグではコミッショナー事務局、マイナーリーグでは各リーグ事務局」を「リーグ事務局」に改め、第6段落の「メジャーリーグの」、第7段落の「マイナーリーグのプレーヤーまたはクラブは、リーグの規則に基づいて、各リーグ事務局に記録員の決定を見直すように要求することができる。」を削除する。

(17) 【9.22注】を次のように改める。(下線部を追加)

我が国のプロ野球では、「組まれている試合総数」を「行なった試合数」に、「マイナーリーグ」を「イースタン・リーグおよびウエスタン・リーグ」に置きかえて適用する。数の算出にあたり、端数は本条(a)(b)各【原注】に準ずる。

(18) 定義14「コールドゲーム」を次のように改める。(下線部を追加)

どのような理由にせよ、球審もしくはリーグ事務局が、その試合の完了する前に打ち切りを命じた試合である。

(19) 定義63 POSTPONED GAME「ポストポンドゲーム」を追加し、以下を繰り下げる。

どのような理由にせよ、予定された日に開始できず、延期された試合である。

以 上

2025年 競技者必携改訂について

技術委員会

1. 投手の12秒及び20秒ルール

◎投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。

◎12秒を経過したとき、20秒を経過したとき、二塁塁審（三塁塁審）は「タイム」を宣告し、頭上で大きく手首を叩いて球審に12秒が経過したことを知らせる。

◎タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した後のプレイは無効とする。学童部、少年部については投球数に入れる。

2. 【マナーを守った節度ある応援について】

◎マナーを守った節度ある応援をしてもらうように取り組む。

懸命なプレイや素晴らしいプレイには、自チーム、相手チームに関係なく、大きな称賛を送る野球環境を作る。

3. ベンチの入れ替え

◎ベンチは、組合せ番号の若い方を一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。

4. シートノック時の補助員のヘルメット

◎ダートサークル内に留まる、あるいは出入りする補助員は、ヘルメットを着用すること。

5. サイドノック

◎サイドノックとは、ベンチ前を利用して塁間程度の距離でゴロ打球の捕球練習をすることを言う。ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手は必ずヘルメットを着用すること。

6. 頭部にヒット・パイ・ピッチを受けたとき（学童・少年・一般共通）

◎選手の安全確保を第一に、その程度を問わず、球審は臨時代走者（テンポラリーランナー）の処置を行う。

7. プレイを利用して相手選手を欺く行為の禁止

◎プレイを利用して相手選手を欺く行為（アンフェアプレイ）を禁止する。現実に欺く行為が行われた場合、ボールデッドとして審判員の判断で進塁を認めるかプレイを無効にする。

8. ユニフォームの上着

◎ユニフォームの上着はきちんとズボンに入れること。

9. 投手用グラブについて

◎捕球面・背面・ウェブは2色まで可。ただし、白/灰色/PANTONEの色基準14番より薄い色の使用は

禁止

◎氏名・背番号・チーム名などの刺繍糸の色、大きさ共に制限なし

◎ハミダシ、紐、指かけ、柄模様についても競技運営ならびに競技者等の安全面に支障がないと判断し、制限をしない。

10. 学童部バットの使用制限

◎安全面を考慮し、学童部では、一般用バットのうち、打球部にウレタン、スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。なお、一般用バットであっても、上記以外の木製・金属製・カーボン製・複合（金属／カーボン）バットについては、使用制限は行わない。（注）少年用バットの使用制限は行わない。

11. アップ、トレーニングのための補助具の使用

◎メディシンボール等、アップ、トレーニングのための補助具は打順表の提出までは使用することができる。

12. 試合球について

◎球審は、1回表及び1回裏開始前、投手へ新しいボール（＝未使用球）を手渡す。5回終了時に使用球を新しいボールと交換することはしない。

13. 外審のポジショニング・外野への打球の責任範囲・メカニクス等

◎●●頁参照